

## 特集 V 環境技術の導入

### 「エコステ」モデル駅使用開始

「エコステ」モデル駅第4弾である常磐線湯本駅では、温泉熱、福島県産木材、太陽光などの地域資源を積極的に活用し、2015年3月に使用を開始しました。待合室に、温泉熱を活用した床暖房や輻射式暖房を設置したほか、ホームにも暖房に使用した温泉水を二次利用する足湯を設置してお客さまにご利用いただいています。



床暖房や輻射式暖房を設置した待合室（湯本駅）



乗換ご線橋に設置した有機薄膜太陽電池（福島駅）

続く、東北本線福島駅では、福島県が策定した「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン」を地域と連携して推進しています。新幹線ホーム上家の軽量型太陽光パネル、乗換ご線橋の有機薄膜太陽電池、地中熱を利用したヒートポンプなどのエコメニューを取り入れ、2015年4月に使用を開始しました。

### 北東北の「再生可能エネルギー基地」化

太陽光や風力、バイオマス、地熱など、再生可能エネルギーの活用を積極的に推進するため、北東北エリアの「再生可能エネルギー基地」化の方針を打ち出し、さまざまな施策を展開しています。

太陽光発電は、2015年2月に花巻愛宕太陽電池発電所、2015年3月に秋田追分太陽電池発電所、秋田天王太陽電池発電所の稼働を開始しました。風力発電は、羽越本線道川～下浜間の鉄道林用地内に、発電規模2MW級の風力発電設備を1基新設し、2016年秋に営業運転を開始する計画です。さらに、風力発電事業の拡大に向けて、「地域エネルギー開発(株)」と共同で「JR東日本エネルギー開発(株)」を設立しました。

またバイオマス発電では、「住友林業(株)」「住友大阪セメント(株)」と共同で「八戸バイオマス発電(株)」を設立、地熱発電では、「(株)大林組」「川崎重工業(株)」と共同で青森県八甲田北西地域の資源開発調査に取り組んでいます。

